

教育実績：大学院

比較対照

- 大阪市立大学大学院看護学研究科
- 大阪府立大学大学院看護学研究科
- 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻統合保健看護科学分野

入試倍率 前期博士

年度	大阪市立大学				大阪府立大学				大阪大学			
	受験者 (名)	合格者 (名)	実質 倍率 (倍)	入学者 (名)	受験者 (名)	合格者 (名)	実質 倍率 (倍)	入学者 (名)	受験者 (名)	合格者 (名)	実質 倍率 (倍)	入学者 (名)
H20	15	13	1.2	11	38	28	1.4	28	28	26	1.1	21
H21	16	15	1.1	12	53	31	1.7	28	43	33	1.3	31
H22	22	13	1.7	13	38	30	1.3	27	41	26	1.6	24
H23	10	9	1.1	8	39	29	1.3	25	46	27	1.7	25
H24	20	11	1.8	8	29	25	1.2	24	38	27	1.4	24
平均	16.6	12.2	1.4	10.4	39.4	28.6	1.4	26.4	39	28	1.4	25

修了生就職地域と進路 前期博士

上段：名
下段：（％）

年度	大阪市立大学					大阪府立大学					大阪大学				
	市内	府内 1)	近畿 2)	他	計	市内	府内 1)	近畿 2)	他	計	市内	府内 1)	近畿 2)	他	計
H21	2 (25)	1 (13)	5 (63)	0 (0)	8 (100)	6 (21)	7 (25)	10 (36)	5 (18)	28 (100)	1 (8)	5 (38)	4 (31)	3 (23)	13 (100)
H22	5 (50)	1 (10)	3 (30)	1 (10)	10 (100)	2 (8)	16 (64)	7 (28)	0 (0)	25 (100)	4 (18)	7 (32)	6 (27)	5 (23)	22 (100)
H23	3 (50)	2 (33)	1 (17)	0 (0)	6 (100)	4 (15)	14 (52)	5 (19)	4 (15)	27 (100)	3 (16)	6 (32)	6 (32)	4 (21)	19 (100)
計	10 (42)	4 (17)	9 (38)	1 (4)	24 (100)	12 (15)	37 (46)	22 (28)	9 (11)	80 (100)	8 (15)	18 (33)	16 (30)	12 (22)	54 (100)

	病院	進学	教員	他	計	病院	進学	教員	他	計	病院	進学	教員	他	計
H21	5 (56)	1 (11)	1 (11)	2 (22)	9 (100)	17 (59)	1 (3)	5 (17)	6 (21)	29 (100)	5 (25)	7 (35)	2 (10)	6 (30)	20 (100)
H22	3 (27)	1 (9)	7 (64)	0 (0)	11 (100)	17 (63)	2 (7)	4 (15)	4 (15)	27 (100)	11 (37)	5 (17)	6 (20)	8 (27)	30 (100)
H23	3 (38)	2 (25)	2 (25)	1 (13)	8 (100)	16 (59)	0 (0)	3 (11)	8 (30)	27 (100)	10 (45)	2 (9)	4 (18)	6 (27)	22 (100)
計	11 (39)	4 (14)	10 (36)	3 (11)	28 (100)	50 (60)	3 (4)	12 (14)	18 (22)	83 (100)	26 (36)	14 (19)	12 (17)	20 (28)	72 (100)

入試倍率 後期博士

年度	大阪市立大学				大阪府立大学				大阪大学			
	受験者 (名)	合格者 (名)	実質 倍率 (倍)	入学者 (名)	受験者 (名)	合格者 (名)	実質 倍率 (倍)	入学者 (名)	受験者 (名)	合格者 (名)	実質 倍率 (倍)	入学者 (名)
H20	—	—	—	—	10	7	1.4	7	23	14	1.6	13
H21	—	—	—	—	10	8	1.3	8	19	18	1.1	18
H22	5	5	1	5	7	5	1.4	5	26	17	1.5	16
H23	3	3	1	3	10	7	1.4	6	22	15	1.5	15
H24	6	4	1.5	4	5	4	1.3	4	15	11	1.4	11
平均	4.7	4.0	1.2	4.0	8.4	6.2	1.4	6.0	21.0	15.0	1.4	15.0

研究実績

外部資金獲得

年度	大阪市立大学				大阪府立大学				大阪大学			
	代表 件	分担 件	合計 件	金額 万円	代表 件	分担 件	合計 件	金額 万円	代表 件	分担 件	合計 件	金額 万円
文部科学研究費（直接経費＋間接経費）												
H21	10	3	13	1,567	27	9	36	4,984	17	10	27	4,164
H22	11	4	15	1,710	22	15	37	4,488	28	9	37	5,602
H23	11	2	13	2,349	26	23	49	4,059	28	14	42	6,257
厚生科学研究費												
H21	0	2	2	115	1	0	1	1,008	1	3	4	1,920
H22	0	1	1	75	0	0	0	0	0	5	5	610
H23	0	1	1	60	1	0	1	100	0	7	7	590
総計	32	13	45	5,876	77	47	124	14,639	74	48	122	19,143
平均 ¹⁾	—	—	—	267	—	—	—	252	—	—	—	580
企業・財団等からの助成												
H21	—		1	40	—		6	500	—		12	1,037
H22	—		3	392	—		8	383	—		11	880
H23	—		1	290	—		12	713	—		11	980

1) 3年間の総金額／常勤教員数@H24/04/01 分母→市大：22名 府大：58名 阪大：33名

主な研究テーマ（研究費あり）

➤ 高齢者支援

地域要支援高齢者への予防訪問の効果評価

地域高齢者見守りに対する地域住民への教育啓発

障害高齢者のシーティング（座位保持）ガイドライン

➤ 母子支援

児童虐待予防のための親子講座

多胎児の発育・発達

小児の愛着障害への治療的介入

➤ 患者支援

結核患者の治療継続のための教育

薬物依存症者への看護

データの分析見解

➤ 看護界での位置づけ

20年間に看護系大学は22倍に急増。近畿圏33大学中、博士課程は7校のみ。
看護系博士取得者を近畿圏に輩出する社会的使命あり

➤ 教育実績 学士課程

- 府下国公立大学で入試倍率や国家試験合格率は最も高い
- 卒業生の88%が看護職として就職し、看護職を着実に輩出
- 卒業生の66%が大阪市内に就職し、大阪市内への人材供給に貢献

➤ 教育実績 前期・後期博士課程

- 受験者数は定員を上回り、他学と同等の入試倍率を維持
- 前期博士課程修了者は、進学や教員になる率が高い

➤ 研究実績

- 教員の科研費獲得は、強化の必要性あり
- 大部分の研究テーマは地域貢献や都市問題に直接関連する実践的内容

Contents

1. 本研究科の特徴とこれまでの改革の流れ
2. データの分析見解
 - －他大学と比較した分野的特徴を含む
3. 主な産学官連携の取り組みと成果
4. 今後の展開と課題

自治体（大阪市や他市町）との連携活動

自治体	活動名	概要
大阪市	大阪市新人保健師・中堅保健師研修会	保健師への研修を年4回実施しスキル向上あり
大阪市福島区	ハッピーママ応援事業	母子保健の講演を行い住民の自主活動に発展
大阪市西成区	西成区におけるハイリスク妊婦の実態調査	ハイリスク妊婦の実態を調べ保健施策に活用
大阪市複数区	双子・三つ子のプレパパ・プレママ教室	大阪市の多胎児妊娠中の妊婦・夫対象に年間4～5回両親学級を開催
泉南市、岬町、 泉大津市他	要支援高齢者への予防訪問の効果評価	地域包括支援センターから高齢者に訪問。一部の市では事業化。看護科学学会でプレス公開
松原市、大東市、 横浜市他	大都市の地域住民による高齢者見守り活動支援	見守り活動にアドバイザーとして実践、研修会は延23回、一部の市では地域福祉計画に反映
西宮市	児童虐待予防のシステム開発	フィンランド国立保健研究所とデータ比較。育児環境に関する基礎データ作成し、施策に活用
西宮市	乳幼児健康診査と虐待管理台帳のデータ解析	児童虐待の発生状況と関連要因を分析し、施策に活用

企業との連携活動

企業名	活動名	研究概要
中外製薬株式会社	大阪がん化学療法コンソーシアム	がん化学療法中の患者をサポートする医療職への講演会企画（毎回100名参加）や啓蒙活動実施

行政機関、看護協会等への兼職承認数

		大阪市	大阪府	国	府下 市町村	他府県	府・日本 看護協会	市町村 社会福祉 協議会	計
H19	件数	12	2	8	2	6	14	1	45
	人員	8	1	7	1	2	9	1	29
H20	件数	14	2	5	2	3	24	2	52
	人員	6	2	3	2	3	11	1	28
H21	件数	8	0	7	4	15	20	4	58
	人員	5	0	7	3	5	9	1	30
H22	件数	8	2	9	3	2	30	3	57
	人員	5	1	6	3	2	9	2	28
H23	件数	3	3	5	11	12	22	5	61
	人員	3	2	5	4	7	5	2	28
計	件数	45	9	34	22	38	110	15	273
	人員	27	6	28	13	19	43	7	143

地域貢献 例

➤ 看護学研究科公開講座

毎年3月に看護学研究科で市民対象に公開講座開催(平均参加者 約130名)

➤ 行政への貢献

大阪府介護保険審査会・訪問看護推進事業協議会委員

岬町介護保険運営協議会委員長

泉南市地域福祉計画・活動計画策定委員会委員長

泉大津市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進委員

河南町等合議体介護認定審査会委員

➤ 学校・NPO等への貢献

「生命/身体とところ/対人関係のなりたちを知る教室」を近畿圏高校で出前講座

発達障害や愛着障害をもつ子どもと家族への療育・育児支援事業

拘置所に収監中の薬物依存症患者への回復支援

回復者主導型薬物依存症回復支援施設（大阪ダルク）の運営支援

➤ 大阪府（他府県）看護協会、日本看護協会等への貢献

大阪府看護協会 看護師職能委員 地域ケア質向上委員 地域福祉理事

大阪・石川・滋賀・奈良・京都・府県看護協会 等で多数講師や研修開催

日本看護協会 認定看護師教育 学会委員 など

主な産学官連携の取り組みと成果

- 大阪および近隣の都市自治体にて保健医療福祉施策に資する活動を展開
- 企業との連携活動は少ない
- 多くの教員が自治体、学校、看護協会等にて、研修や委員等を務める

→看護の質向上や看護職の現任教育等に貢献

Contents

1. 本研究科の特徴とこれまでの改革の流れ
2. データの分析見解
 - －他大学と比較した分野的特徴を含む
3. 主な産学官連携の取り組みと成果
4. 今後の展開と課題

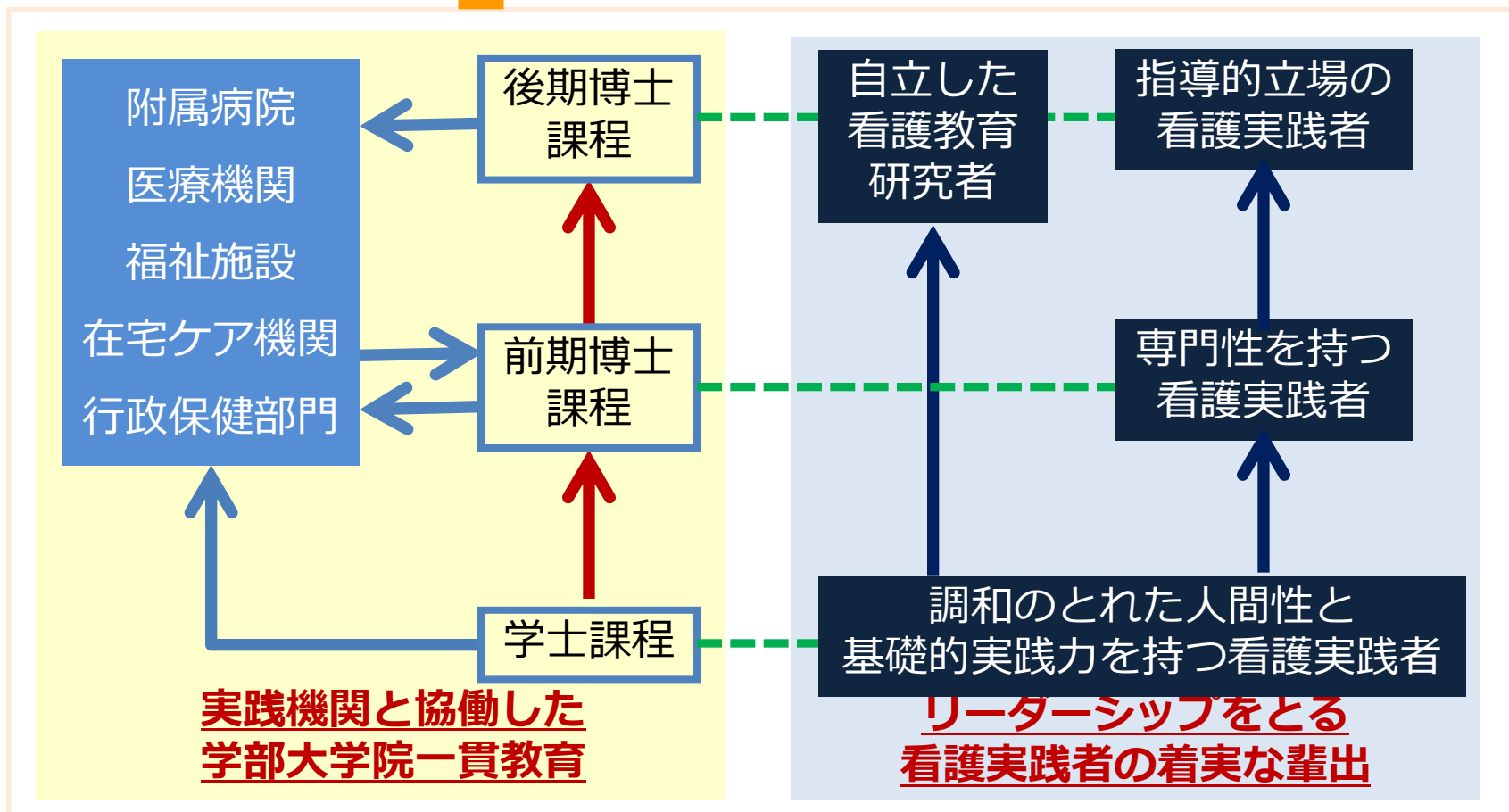
看護実践者・看護教育研究者の育成

[本研究科の人材育成方針]

質の高いケアを提供する看護職
看護実践研究を志向する教育研究者

[市民・府民への効果]

安心できる保健医療ケアを受けられる
大学における良質な看護教育の受益



都市型看護実践研究の推進

[本研究科の研究推進方針]

看護実践応用性が高い研究
都市健康問題の予防やケアに資する研究

[市民・府民への効果]

都市の保健医療施策の根拠に活用
都市健康問題の予防と改善

都市型看護実践研究 の推進

高齢者の自立支援と介護予防・地域見守り
結核治療支援、薬物依存者の看護、母子虐待予防

[本研究科の強み]

都市中心部に所在
利便性が高く、人を集めやすい
附属病院等と連携
保健医療福祉行政と連携
地域密着型の活動が展開
総合大学であり他分野と連携

[都市健康問題の特徴]

超高齢化→要介護状態や認知症、老々介護
孤独→閉じこもり、自殺、薬物や飲酒依存
貧困→感染症、野宿者、不衛生
人間関係の希薄化→DV、虐待、介護放棄
単身者の増加→孤独死、病気障害の重度化
生活の不規則→生活習慣病
競争社会→仕事依存、PTSD、発達障害

今後の展開と課題

- 研究科ぐるみの特徴的な取組みや大学院の機能強化に課題あり
 - －脆弱な教員体制
 - －学部・大学院課程設置に尽力してきた経緯

- 立地や附属病院等との連携体制の好条件を生かした活動の推進
 - －リーダーシップをとる看護実践者を着実に輩出
 - －附属病院や実践機関と協働した学部大学院一貫教育
 - －都市型看護実践研究の推進

まとめ

➤ 本研究科の実績

- H16年度に看護学科を設立後、前期・後期博士課程を続けて開設し、人事組織改革を展開
- 看護職を近畿圏の医療機関等に着実に輩出し、地域密着型の実用性の高い研究や活動を展開

➤ 看護学領域の特徴

- 急激に大学教育化しており、教育研究者の需要大
- 女子の大学進学や女性教員の雇用を促進
- 「ヒトづくり」→適度な大きさの教育規模が効果的

看護学は住民の健康改善に直接効果をもたらす実学



公立大学のミッション